



**NPO 法人ピープルズコミュニティ**  
理事長 安田 裕美子さん

**エコな人・みつけた**

2012年7月【第1回】

**輪之内町から生まれた生ゴミは、  
輪之内町の土に還す。**

地域の生ゴミを集めて、土に還す—— 婦人会の同志がこの取り組みを始めたのは10年程前。理念のすばらしさは間違いないのですが、それを実際に行動するとなると骨の折れる仕事。各家庭をまわっての生ゴミ集め、自前の畑に生ゴミを埋める作業など、忙しいはずの主婦を中心とした組織でそれらを続けていくには、余程の高い志しが必要でなかったであろうことが想像されます。

「当初、30名程いた会員も気が付いたら3名に減少していました。」

会員は減少の一途をたどります。取り組みをスタートさせてから2年後、安田さんたちは会の存続をかけて、予算を付けてもらえるよう町に働きかけたそうです。町からの答えは、～NPO法人にしていきたい、そうすれば予算を付けられる～というものでした。

**子どもたちの未来を考えると、  
こうせすにはいられない。**

組織のNPO法人化は一気に進展します。それと同時に動きはじめたのが、輪之内町民が持ち込む資源ゴミを受け入れる「エコドーム」の建設です。岐阜県内の市町村で最も早く環境ISOを認証取得し、環境への取り組みに熱心であった輪之内町。安田さんたちの熱心な働きかけに対し、ゴミの減量化に向けて、町はそれ以上の形で応じたわけです。婦人会の環境活動は「NPO法人ピープルズコミュニティ」となり、これらの事業を町から委託契約される形で活動を続けられるようになります。

拠点を構えるとともに、有給で活動できるようになった組織は息を吹き返し、今では会員数460名程に成長。事業内容も、生ゴミや資源ごみのリサイクルに限らず、リサイクルショップ「くるりん」運営、貸農園の運営、「ぎふ地球環境塾」運営（環境教育）、ボカシ作りなど、幅広く行われています。

「町内に限った問題ではないので、もっと広くつながってほしい」自分たちがやってきたことは実を結びつつあるものの、安田さんは環境問題に危機感を感じているといいます。先に進めば進むほどに、さまざまな課題があることを実感する日々。次世代へ、町内外へ、さらなる広がりを求めて、地道な活動を続けています。

※エコムカワムラ(株)では、平成21年度分について、エコドーム・資源ゴミの回収および処理・再生を委託されました。

取材へのご協力に感謝します！

「生ゴミを集めて、土に還す」というシンプルな活動ポリシー。これほどまでに広がりを見せたのは、実際の活動以上に、「なぜそれが必要か」を参加・協力者に理解してもらうための機会を作り、精力的に行動しているところではないでしょうか。安田さんたちの情熱が伝わり、町全体を動かす取り組み（生ゴミ処理参加世帯数1226世帯<約50%>）となりました。



環境先進のまち・輪之内町にふさわしく、視察に来る団体・個人は年間2000人超。



ドーム内は整然と整理され、多くの町民が訪れ、男性が資源ゴミを持ち込む姿も増えているそう。



ボカシ作り、野菜の収穫。生ゴミ・資源ゴミ再生は、町民の協力なしにはできません。



小学校などへの出前講座を実施しています。子どもたちの成長がやりがいとなります。



生ゴミは生ゴミ処理機で処理され、堆肥となって町民に無料で配られています。